

歯科基礎医学会では、日本歯科医学会が目指す 2040 年への歯科イノベーションロードマップ作成に向けて 4 つの研究テーマを選定して推進するとしており、昨年の学会では、その中の一つである「口腔・全身の健康増進を目指す口腔マイクロバイオームの解明」をテーマに取り上げてキックオフシンポジウムを開催しました。司会を私と新潟大学山崎和久教授が担当し、この 2 名に大阪大学久保庭雅恵准教授、早稲田大学服部正平教授を加えた 4 名のシンポジストからなるシンポジウムを企画しました。しかし、生憎の台風 19 号の襲来でその開催が危ぶまれましたが、幸いにシンポジウム当日は台風が去り、無事シンポジウムを開催できました。ところが、私はロンドンからの帰国便が台風の影響で欠航となり、急遽、司会を大阪大学天野敦雄教授、私が担当する講演は当研究分野の竹下徹准教授にお願いすることになりました。天災とはいえ、ご迷惑ならびにご心配をお掛けした関係の皆様には、この場をお借りして深くお詫び申し上げます。

私の講演を代行した竹下准教授からの話では、過ぎ去ったとはいえ台風の影響を受けながらも多くの観衆を集めシンポジウムは盛況の中に開催されたとのことでした。竹下准教授からは口腔マイクロバイオーム解析を如何にして歯科臨床に応用すべきか、久保庭准教授には口腔マイクロバイオームをその代謝産物から解析する意味を、服部教授からは我が国のマイクロバオーム研究の牽引者として大所高所の観点から口腔マイクロバイオーム研究の今後の進め方への示唆を、最後に山崎教授からは口腔と腸管のマイクロバイオームの相互作用の観点から口腔マイクロバイオームが全身の健康に及ぼす影響についての興味深い話が展開されました。

従来、口腔細菌については悪玉菌と善玉菌があり、悪玉菌を根絶することで健康を保とうとする勧善懲悪的な捉え方がなされてきました。虫歯ワクチンという考えはその最たるものと言えます。しかし、最近では口腔には細菌がコミュニティを形成しており、そのコミュニティの健全なバランスこそが大切であると理解されるようになってきています。例えば、これを分かり易く我々の社会に置き換えて考えてみます。譲り合い精神に富んだ善良な市民だけで構成された社会は一見住み心地が良さそうですが、そこに乱暴な集団が入り込んだ場合には、その社会の平穏は一変に崩壊します。社会の安定には様々な環境変化に対応できる少々気の荒い構成員も必要といえます。正によく言われるダイバーシティ（多様性）が大切という言葉につきますが、ただダイバーシティが高ければ良いのではなく、そのバランスこそが大切といえます。

これまでは *Streptococcus sobrinus* や *Porphyromonas gingivalis* を知らない歯科医がいるのかと揶揄されることもありましたが、これからは口腔マイクロバイオーム、ダイバーシティの概念のない歯科医は社会の信頼を得ることは難しくなるかもしれません。そして、歯科基礎医学の使命はこれらの概念を歯科臨床に如何にして有用な知識や技術として具現化できるかであると思います。歯科基礎医学会はこの 2040 年への歯科イノベーションロードマップの達成を目指して活動を進めて参ります。